

2009年3月期 第1四半期決算 電話説明会 説明概要

「2009年3月期 第1四半期決算 補足資料」をもとに説明致しましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2008年8月5日（火）
- ・説明者 執行役員 経理部長 横田 明宜

【連結業績】

2009年3月期 第1四半期決算の連結損益計算書を簡単に確認させていただきます。お手元の補足資料の左ページをご覧ください。

当四半期は、前年同期と比較して、

- ・売上高は、6.5%増の806億円、
- ・営業利益は、32.9%減の43億円、
- ・経常利益は、30.2%減の40億円、
- ・四半期純利益は、36.5%減の20億円

となり、増収減益となりました。

【セグメント別売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因について説明いたします。

テーマパーク事業

消費者マインドの悪化という厳しい環境の中、入園者数、ゲスト1人当たり売上高ともに前年同期を上回り、売上高は前年同期比47億円増の648億円となりました。

入園者数及びゲスト1人当たり売上高の前年同期差異については、補足資料右ページの表「テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、4月15日にスタートした東京ディズニーリゾート25周年効果により、前年同期を上回り、過去最高となりました。

また、ゲスト1人当たり売上高も、前年同期を若干上回りました。その内訳を説明いたしますと、チケット収入は、年間パスポート入園者数が増加したことなどにより前年同期を下回りました。商品販売収入は、東京ディズニーリゾート25周年商品の販売が好調であったことから前年同期を上回りました。飲食販売収入は、チキンレッグやロングエクレアと言ったワンハンドメニューが好調だったことなどにより前年同期を若干上回りました。

なお、入園者数及びゲスト 1 人当たり売上高の前年同期差異についてですが、増加率が 1～2%程度の場合は「若干上回った」、それ以上の場合は「上回った」と表現しております。

続きまして、補足資料右ページの表「売上高の状況」をご覧ください。

テーマパーク事業の収入内訳につきましては、アトラクション・ショー収入、商品販売収入、飲食販売収入、その他の収入、すべての項目で前年同期を上回りました。

ホテル事業

東京ディズニーリゾート 25 周年イベントなどを展開し、好調に推移した結果、売上高は前年同期比 2 億円増の 78 億円となりました。

各ホテルの客室稼働率の前年同期差異については、補足資料右ページの表「ホテル客室稼働率」をご覧ください。

- ・東京ディズニーシー・ホテルミラコスタの客室稼働率は、前年同期とほぼ同様となりました。
- ・ディズニーアンバサダーホテルの客室稼働率は、前年同期を若干上回りました。
- ・パーム&ファウンテンテラスホテルの客室稼働率は、前年同期を上回りました。

これらの結果、各ホテルの売上高につきましては、すべてのホテルで前年同期を上回りました。

リテイル事業

消費者マインド悪化という環境の中、客数が減少したことなどから、売上高は前年同期比 2 億円減の 34 億円となりました。

リテイル事業の主な指標については、補足資料右ページの表「ディズニーストア関連情報」をご覧ください。

ディズニーストアの既存店売上高は、客数が減少したことなどから、前年同期を下回りました。出退店状況ですが、6 月 30 日に川崎 BE 店をクローズしたため、当四半期末の店舗数は 52 店舗となりました。

その他の事業

飲食販売収入やディズニーリゾートラインの運賃収入が増加したことなどから、売上高は前年同期比 1 億円増の 44 億円となりました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。補足資料の右ページの中段をご覧ください。

テーマパーク事業

営業利益は、前年同期比 5 億円減の 48 億円となりました。

主な増減要因といたしましては、売上高が増加した一方、税制改正などに伴う減価償却費が 11 億円、施設更新関連費・販促活動費などのテーマパーク固定費が 10 億円、本年 3 月に実施した準社員時給改定などに伴う人件費が 8 億円、それぞれ増加いたしました。

なお、当四半期に増加したテーマパーク固定費は、東京ディズニーリゾート 25 周年スタートに伴う費用や東京ディズニーランド大規模改修振替費用と言った第 1 四半期特有の費用です。テーマパーク固定費は、通期では、期初予想通り減少する見込みです。

ホテル事業

東京ディズニーランドホテルの開業前準備費用が 9 億円増加したことなどから、営業利益は前年同期比 10 億円減の 3 億円となりました。

リテイル事業

前期に引き続き固定費の低減に努めたものの、売上高が減少したことなどから、営業損失は前年同期より 1 億円増の 3 億円となりました。

その他の事業

シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の開業前準備費用が 3 億円増加したことや、ディズニーリゾートラインの車両法定検査費用が 2 億円増加したことなどから、営業損失は前年同期より 4 億円減益の 3 億円となりました。

セグメント別営業利益の説明は、以上となります。

なお、当期より費用計上区分を変更した科目がありますので、補足いたします。補足資料の※印部分をご覧ください。

当期よりホテル事業セグメントを新設したことに伴い、ホテル事業の費用計上区分を変更いたしました。具体的には、これまで売上原価に計上していた、運営諸経費や販促費などの諸経費、人件費、減価償却費などを、当期より販管費として計上しております。費用計上区分変更前の連結四半期実績値は、補足資料に記載の通りです。

【経常利益】

最後に、営業外損益の主な増減要因について簡単に説明いたします。補足資料左ページの連結損益計算書をご覧ください。

本年4月に実施した1,000億円の社債償還に伴う支払利息の減少により営業外費用が減少したことなどから、営業外損益は前年同期より3億円増益となりました。

【総括】

それでは、総括をさせていただきます。補足資料右下の「総括」をご覧ください。

対前年同期

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、

- ・当四半期は、消費者マインドが悪化する中、東京ディズニーリゾート25周年効果によりテーマパークの入園者数及びゲスト1人当たり売上高が増加し、増収となりました。
- ・一方、税制改正などにより減価償却費が11億円増加したことや、東京ディズニーランドホテル及びシルク・ドゥ・ソレイユシアター東京の開業前準備費用が12億円増加したことなどにより減益となりました。

対業績予想

数値は開示していませんが、当四半期実績を業績予想と比較いたしますと、

- ・東京ディズニーリゾート25周年効果により、テーマパークの入園者数及びゲスト1人当たり売上高が増加し増収となりました。
- ・第2四半期以降への費用の時期ずれ分が約13億円ありますが、これを勘案しても当四半期は大幅な増益となりました。

最後に、当四半期決算を踏まえた、中間期及び通期の業績予想についてですが、前述の通り、当四半期は業績予想を大幅に上回って推移したものの、集客のボリュームゾーンである第2四半期以降のテーマパーク入園者数に対する天候リスクなどを踏まえ、現時点では、中間期および通期の連結業績予想を変更いたしません。

以上